

和名	分類	特徴ほか	会える場所											
			ハイム (中野島)	多摩川土手 (中野島周辺)	生田緑地	その他								
ムラサキシジミ	シジミチョウ科	遊歩道で日向ぼっこする青 藍のシジミチョウ	◎	○	◎	宮城県以南								
			成虫発生時期 (月)											
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
			食草 ○ 食樹		発生回数/年		越冬形態							
			アラカシ、クヌギほか (ブナ科)		3~4		成虫							



川崎市 ハイム♀ 11月6日 (2016年) アラカシの葉上



川崎市 ハイム 9月20日 (2017年) 三齢幼虫とアリ



川崎市 ハイム 9月20日 (2008年) ♀

ムラサキシジミはハイム内の食樹アラカシの生垣で卵から育てて蝶になります。丁度新芽が吹く頃に卵が孵化するという絶妙のタイミングで硬い葉はとも生まれただの幼虫には歯が立ちません。幼虫の周りにはアリがいてアリは幼虫の出す甘い分泌液のとりこになり帰巢本能が麻痺しひたすら分泌液をなめながら、幼虫のボディガードとしての役目を果たしています。

秋の好天の午前中には遊歩道のアラカシで青藍色の羽を開いて日向ぼっこしている姿をよく見かけます。尚、ハイムにはマテバシイを食樹とするムラサキツバメも生息していてこちらには後ばねに尾(尾状突起)があるところで見分けられます。

→
川崎市 ハイム
9月19日 (2021年)
裏は地味



→
川崎市 ハイム
10月1日 (2022年)
鱗粉の配列



→
ムラサキツバメ♀
川崎市 ハイム
11月6日 (2016年)
アラカシで日光浴





←
川崎市 多摩川土手 (久地) ♂
11月8日 (2021年)
朝の光にエノキの葉上で輝く紫を
披露

↓ 川崎市 森林公園 ♀
9月5日 (2022年)
色合いは個体により異なる



川崎市 多摩川土手 (久地)
11月16日 (2021年) ♂

オスの方が紫が濃く範囲も広
がる

